



# EXCITING DUATHLON GRAND PRIX CalfMan Japan



## 開幕！カーフマンジャパン・デュアスロングランプリ 2004

圧勝！高橋泰夫、初戦を貫禄の勝利。(エリートクラス)

女子は新鋭、岸麻衣子が初優勝。(女子クラス)

第1ステージの予定であった東海ステージが台風23号の影響で順延なり、今シーズンの開幕戦となった近畿ステージ、曇りながらも気温15度、無風という昨年の厳しい風雪に比較すれば絶好とも言えるコンディションで行われた。

### 【女子レースレポート】

女子はエリートランナーである鈴木純子(兵庫県)が評判どおり、第1ランで他を圧倒、2位の岸麻衣子(広島大学トライアスロン Gulls)らに1分弱のアドバンテージでバイクに。

2年ぶりにこの大会のためにバイクに乗ったという鈴木は、アップダウン・テクニカルなこの近畿ステージのコースに思うようにラップが刻めない。逆に軽快な走りを見せたのが、岸麻衣子、雅守亜希子(大阪体育大学レッドエンジェルス)らの大学生勢。2人は鈴木をかわした後も快調な走りを見せる。特に雅守はバイクフィニッシュ時にトップ岸に10秒差まで詰め寄る快走を見せ、場内を沸かせた。



バイクに苦しんだ鈴木はラップ5位のタイムであったが、なんとか3位の位置に踏みとどまり、第2ランでの逆転へ向けて執念の走りを見せる。このグリーンピアのバイクコースの後としては地獄とも言える急坂の待つ第2ランに入ると、今度は立場が逆転。小柄な鈴木は飛ぶような走りで、2人を追う。2周目に入ると雅守を捕らえ、2位にあがり岸に迫る。1.25km2往復のこのコースは、どちらかという逃げのほう有利か。首位の岸は折返しの度に差を確認。最後は20秒差に迫られながらも、心臓破りの急坂を登り

きると逆に一気に加速。そのまま差を詰めさせることなくフィニッシュテープを切り、初優勝を飾った。

2位には、敗れはしたがさわやかな表情で鈴木がフィニッシュ、3位には雅守がそのまま入った。



## 【男子レースレポート】

「準備はしっかりとしてきた」。レース前にそう語った昨年の近畿ステージ優勝、チャンピオンシップでも3位に入った高橋泰夫(寅壺 CW-X)。高橋は予想通り第1ランから他を圧倒。4.85kmながらアップダウンの激しいこのコースを14分代のランラップでバイクへ飛び出す。地元兵庫の三木琢矢(AINA.A.C) JSDS のシリーズチャンピオンの経験を持つ山口崇(福知山自衛隊)も予想通りの走りを見せて高橋を追う。



しかしながら、バイクパートでも観戦者のため息を誘ったのは高橋泰夫。誰もが見てわかる他を圧倒する迫力のある走りは、周回ごとに後続との差を広げる。後続は、第1ランラップ11位のポジションから一気に上がってきた前田良孝(広島県) 佐藤貴徳(AINA.A.C)らが他の選手を引っ張る形で続く。

結局、バイクラップだけでも前田らにさらに1分以上の差をつけた高橋は、第2ランに入ってもそのアグレッシブな走りを持続。第1ラン、バイク、第2ラン、すべてにおいてラップ1位。第1ランから後続との差を広げつづけ、2位三木との差を3分以上つける大差で圧勝。関西圏ではもはや敵なしといった強さを見せつけた。1位の高橋から4位の山口まですべて30代というベテランパワー炸裂となった近畿ステージであったが、そのなかでも頑張ったのが高校1年生の松田隆寛。弱冠16歳ながら、第2ラン3位の快走を見せ見事9位に入り、チャンピオンシップへの権利を獲得した。松田のような若手が、高橋らのベテラン勢に今後どこまで迫ることができるか、注目したいところである。



この件に関するご質問は

## カーフマン・ジャパンドュアスロン大会事務局

担当：清本 直

〒206-0802 東京都稲城市東長沼2-120-6 グランヴェルジェ104

TEL 042-379-5201 FAX 042-379-1992

URL <http://www.mspo.jp/calfman>

E-mail [calfman@mspo.jp](mailto:calfman@mspo.jp)

社団法人日本トライアスロン連合 <http://www.jtu.or.jp>

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-9-10 青山キングビル3F

TEL 03-5469-5401 FAX 03-5469-5403